

ミューズ No. 3 (平和のための博物館・市民ネットワーク通信)

発行：2000年4月

事務局：平和資料館・草の家（高知市升形9-11）

Tel: 088-875-1275.

Fax: 088-821-0586

コーディネーター 西森茂夫

海外の平和博物館

「草の家」国際交流部 山根和代

海外の平和博物館の動向について、アメリカの百科事典に載せられたイギリスのブラッドフォード大学ピーター・ヴァン・デン・ダンジェン博士の記事や、平和博物館国際ネットワークのニューズレターを中心に、お知らせします。

日本の平和博物館、アメリカの百科辞典に

昨年10月アメリカの Academic Press という出版社から、「暴力、平和、紛争に関する百科辞典」（三巻）（原題は Encyclopedia of Violence, Peace & Conflict で、編集長は Lester R. Kurtz 氏です。また広島修道大学の岡本三夫教授も編集されています）が出版され、イギリスの Dr. Peter van den Dungen が平和博物館について執筆されました。日本の平和博物館も紹介されていますので、その一部を要約します。紙面に制限があるため、この本についての詳細を知りたい方は次のホームページを御覧ください。

<http://www.academicpress.com/>

注文先： Academic Press: Marketing Department DM47247

252 B Street, Suite 1900, San Diego, CA 92101-4495 USA

なお価格は \$ 525 です。

平和教育：平和博物館

イギリス ブラッドフォード大学 Peter van den Dungen 著

1. 最初の平和博物館

世界の平和を促進するために、政治的にはヨーロッパ連合や国連が作られてきました。また平和教育の重要性は、エラスムス(1466?-1536)の時代でも指摘され、彼はあらゆる犠牲を払って戦争を避けるべきであることを、時の支配者に要求しました。その後戦争をなくすためには、市民が戦争の原因や結果について知る必要性に気付き、19世紀には平和研究所の設立や、大学における平和学部の創設について考えるようになり、現代ではそれらが実現されています。別なやり方で平和教育をする平和博物館も、同様なことが言えます。

平和博物館を最初に提案したのは、200年前のことです。1798年フィラデルフィアの著名な医師である Dr. Benjamin Rush は、アメリカ平和長官の任用と、戦争をなくすための展示会の提案をしました。1776年軍医として戦争を体験した彼にとって、頭骸骨、血に染まった川、腐った死体などで戦争の現実を知らせることは、平和教育をすることと同じことでした。

その一世紀後の1902年、スイスのルサーンでポーランド系ロシア人の Jean de Bloch が、国際戦争・平和博物館を創設しました。これは、最初の反戦博物館であると考え

ことができます。第一次世界大戦後の1925年、Ernst Friedrich はベルリンに国際反戦博物館を創設しました。次の世代への警告として、戦争の恐ろしさを写真で伝えようとしてきました。1933年ナチスによって破壊され、身の危険を感じたフリードリヒは亡命しました。その孫であるTommy Spree氏によって、1982年(西)ベルリンに反戦博物館が再建されました。

II. 日本の博物館

第二次世界大戦後も、平和博物館や反戦博物館が新たに創られました。広島と長崎へ原爆が投下されて10年後、その悲劇を伝え、世界の核軍縮運動で積極的な役割を果たそうと、博物館が創られました。日本における反核運動は、アメリカが1954年にビキニ環礁で水爆実験をして第五福竜丸が被爆した後、始まりました。約20年後その船は、日本における第三の反核博物館である第五福竜丸展示館に展示されました。

1980代の末から1990年代の初期に、自治体によって平和博物館が数多く開館しました。川崎市平和館や埼玉県平和資料館などの公立博物館は、丸木美術館や佐喜眞美術館、また「草の家」のような、個人が作った博物館や、立命館大学国際平和ミュージアムのような民間の組織によって補完されています。博物館の数の多さ、多様な後援者、今後平和博物館が増加する可能性を考えると、日本は「平和博物館運動」について語る事が可能な唯一の国です。(表にあげた世界の平和博物館35館中、三分の一が日本にあります。)1994年広島平和記念資料館に7館の関係者が集まり、第一回日本平和博物館会議が開催されました。その後毎年会議が開催されています。

日本の平和博物館は、数が増えただけでなく、質的に変化をしたという特徴があります。広島平和記念資料館と長崎原爆資料館における展示は、原爆の被害の側面に関する展示にとどめていますが、大阪国際平和センターや立命館大学国際平和ミュージアムでは、日本の侵略的な軍国主義に関する展示をしています。このようにして日本の過去についてより正確で正直な理解をするのに重要な貢献をしています。同時に近隣諸国の間に、日本に対する信頼感を作り出しているのです。従ってこのような平和博物館は、平和教育をしているだけでなく、平和の構築に寄与していると言えます。日本の平和博物館では、核問題の展示がなされることが多いのですが、国際的平和を実現するために国連や国際法の役割のような、別の側面も取り上げています。このように日本の平和博物館の反核・反戦メッセージは、平和と非暴力的紛争解決に対する建設的で積極的な取り組みによって補完されているのです。

現在の平和博物館

1946	ジュネーブ	国際連盟博物館
1955	広島	広島平和記念資料館
1955	長崎	長崎原爆資料館
1959	イタリア	国際赤十字博物館
1959	インド	ガンジー記念館
1960	アムステルダム	アンネ・フランクの家
1963	インド	ガンジー博物館 (Gandhi Smarak Sangrahalaya)
1963	(西) ベルリン	ベルリンの壁検問所博物館
1967	埼玉	丸木美術館
1976	東京	第五福竜丸展示館

1980	リンダウ (独)	リンダウ平和博物館
1980	レマーゲン (独)	レマーゲンの橋平和博物館
1981	シカゴ	平和博物館
1982	ドイツ	反戦の家平和センター
1982	(西) ベルリン	反戦博物館
1983	ドイツ (Meder)	ミーダー反戦博物館
1984	(東) ベルリン	平和図書館・反戦博物館
1986	デトロイト	「刀を鋤に」平和センター・美術館
1985	サマルカンド	国際平和・連帯博物館
1988	カーン (仏)	カーン記念館
1988	ジュネーブ	国際赤十字・赤新月博物館
1989	高知	平和資料館・草の家
1989	沖縄	ひめゆり平和祈念資料館
1989	大阪	大阪国際平和センター
1990	高知	自由民権記念館
1991	メンフィス (米)	国立民権博物館
1992	川崎	川崎市平和館
1992	京都	立命館大学国際平和ミュージアム
1993	埼玉	埼玉県平和資料館
1993	オーストリア	フランツ・イェーガーシュタッターの家
1993	オーストリア	オーストリア平和博物館 (Wolfsegg)
1994	沖縄	佐喜眞美術館
1994	ベルダン (仏)	国際平和自由人権センター
1995	ハーグ	イ・ユン平和博物館

その他、III. ドイツの博物館、IV. 個人にささげられた博物館、V. 国際的組織に関する博物館、VI. 戦争博物館と戦争記念館、VII. 平和に関連した博物館、VIII. 今後の展望がありませんが、紙面に制限があるため、省略します。

なお今後建設予定の平和博物館として、イギリスの国立平和博物館、ナイロビのアフリカ平和博物館、オランダの反戦博物館、ニューヨークのメトロポリタン平和博物館、ニュルンベルクの平和博物館、オスロのノーベル平和賞博物館、オーストリアのヨーロップ平和博物館、オンタリオのシャロン・テンプル・歴史的遺跡平和博物館が、挙げられています。また最後に、平和博物館が平和教育だけでなく、平和文化の普及に大きな役割を果たすことを指摘されています。

平和博物館国際ネットワークのニューズレター no 12 (2000年2月発行) より

フランスのカーン：拡張の計画

ノルマンジーの戦いで知られているカーンの平和博物館は、1988年に創設して以来400万人の訪問者がありました。今後、第二次世界大戦に関する展示（諸都市の破壊、廃墟の中での生活、再建での努力）だけではなく、冷戦の歴史（植民地の独立、ヨーロ

ツパの統一など)、現在の国際問題、その解決に必要な方法や努力、環境問題(南極大陸の非核化など)に関する展示をするため、平和博物館を拡張する予定です。ここ3年間の年間訪問者は35万人で、訪問者の満足度は高いものの、わずか15%しか再訪していません。今回の拡張により、年間45-50万人の訪問者になることが期待されています。

連絡先: Christophe Bouillet (Development Assistant). E-mail: memorial@unicaen.fr; Fax: 33-2-31-06-06-70; Tel.: 33-2-31-06-06-51.

コスタリカ: 平和のための博物館

現在 Oscar Arias Sanchez 氏(元大統領で1987年ノーベル平和賞受賞者)によって、首都に平和博物館を創るために、資金集めがなされています。中央アメリカの平和と民主主義を強化するのに必要な行動ができるような平和博物館を目指しています。展示の詳細は、下記のホームページで入手できます。

<http://www.arias.or.cr/fundarias/cpr/museo-i.html>

第3回平和博物館国際会議報告書

英語版 Exhibiting Peace (送料を含めて\$10)と日本語版「平和をどう展示するか」が出版されました。英語版を海外で10冊以上注文の方は、1冊につき3ドルの値引きをします。

注文先は、最後の出版物のところを御覧下さい。

ベルギーにおける第4回平和博物館国際会議(2002)

5月14日ハーグにおける平和博物館国際ネットワークのコーディネーターの会議で、第4回平和博物館国際会議をベルギーのウエストファンダースで開催することが決まりました。Diksmuideにある the IJzer Tower Peace Museum と Ieperにある In Flanders Fields Museum の2つの平和博物館に、国際会議の開催をお願いすることになりました。

第一次世界大戦で戦死したフランドルの兵士のために、1920年に最初の巡礼の旅が行われました。毎年8月の最後の日曜日に行われる巡礼の旅は、ヨーロッパにおいて最も古くから行われ、また最大規模の平和行進だと言われています。平和行進は、第一次世界大戦の戦場であった所に建てられた IJzer 塔に向かってなされますが、その塔はヨーロッパで最大の平和記念碑であると言われています。詳細を知りたい方は、下記の所に連絡して下さい。現在修復中の IJzer 塔は、2002年に完成する予定で、そのお祝いを兼ねて、国際会議が開催されます。多分会議は5月1-8日に開催されるのではないかと思います。偶然その頃、フランドースと日本の友好を深める取り組みと、恒例の平和祭が開催されます。第4回国際会議に向けて、平和コンサート、映画祭、舞踏会が計画されているところです。

Dirk Demeurie, IJzertdijk 49, B-8600 Diksmuide, Belgium; Tel. 32-51-500-286 と -502-286; Fax: 32-51-502-258; E-mail: ijzertoren@unicall.be; Website: www.ijzertoren.org

ハーグにおける平和博物館国際ネットワークのコーディネーター会議

1999年5月ハーグ平和会議が開かれた際、平和博物館国際ネットワークの拡大コーディネーター会議が開かれました。坪井主税氏の提案で、国際調整委員会と国際諮問委員会が設置されました。国際調整委員会では、国際会議などについて最終的な決定権がありますが、国際ネットワークの規約や国連など国際組織との連携など重要な課題につ

いて、国際諮問委員会に勧告を求めて、最終的な決定をすることになりました。

各委員会の構成メンバーは7人で、任期は3年（次の国際会議が開催されるまで）です。国際調整委員は、平和博物館関係者がなり、国際諮問委員会は、様々な専門家（例えば平和教育の専門家）がなります。アジアから2名、ヨーロッパから2名、アメリカから1名、国連から1名、次の国際会議担当博物館から1名選出することになりました。

具体的には次の方が国際調整委員に推薦されました。アジアでは安齋育郎氏（広島平和記念館など、大規模の平和博物館が集まった「平和博物館会議」代表）、山根和代（比較的小規模で独立した平和博物館も加盟している「平和のための博物館・市民ネットワーク」代表）、ヨーロッパでは Anne C. Kjelling 氏（ノルウェーノーベル研究所）、Peter van den Dungen 博士（ブラッドフォード大学平和学部）、アメリカの平和博物館から一人、国連代表として、Arthur Eyffinger 博士（ハーグにある国際司法裁判所にできた平和博物館の館長）、ベルギーの Ijzer Tower 平和博物館の Dirk Demeurie 氏の7名です。

また国際諮問委員として、Gerald Drewitt 氏（イギリスの Give Peace a Chance Trust 代表）、Terry Duffy 博士（ロンドンデリーのアイルランド平和博物館を創る会）、Ursula-Maria Ruser 博士（元国際連盟博物館代表）、坪井主税教授（札幌学院大学）、Nigel Young 博士（ニューヨーク、コールゲート大学平和学）、その他2名の7名です。

その他、平和博物館の規模に応じた分担金、国際ネットワークの予算、ホームページの開設などについても話し合われました。国際ネットワークで積極的に活動したい方は、御連絡下さい。今回の会議で具体的な提案をし、討論をまとめられた坪井主税氏に感謝申し上げます。

イ・ユン平和博物館 - 朝鮮に関する国際平和会議

ハーグにあるイ・ユン平和博物館では、1999年5月15日に朝鮮に関する国際平和会議を開催しました。韓国の外務大臣のメッセージや、韓国のオランダ駐在大使、ソウル国立大学教授のスピーチがありました。また立命館大学国際平和ミュージアムの安齋育郎館長は、平和教育の重要性と平和博物館がそこで果たす役割について話し、平和博物館アジアネットワークを創ることを提案しました。また歴史教育の重要性、さらに平和博物館が平和の実現のために関わるができるようにする必要性を強調しました。

イ・ユン平和博物館館長の Kee-Hang Lee 氏は、南北朝鮮の境界線付近に朝鮮平和博物館を創ることを提案しました。また「非武装地帯」を「朝鮮平和ベルト」と名前を変え、朝鮮平和博物館、朝鮮平和の鐘、アジア平和公園、板門店平和研究所を創ることも提案しました。また今年の6月25日は、朝鮮戦争が始まって50年目になりますが、館長はこの日を「朝鮮平和の日」にすることを、韓国政府に提案しました。

ケニアにおける博物館・調停・紛争解決に関する全国大会

1999年5月国立ケニア博物館で、平和創出と紛争解決における博物館の役割について、アフリカで初めて会議が開かれました。その結果様々な平和団体でネットワークを創り、情報交換をしていくことが確認されました。また国立ケニア博物館で、先住民の紛争解決方法について、紛争の多い地域（コンゴ、ウガンダ、タンザニア、ルワンダ、ブルンディ）の博物館と共に、会議を開いたり、展示をすることも決まりました。

連絡先：Dr. Sultan Somjee or Mr. Hassan Wario of the Ethnography Division of the National Museums of Kenya (P.O. Box 40658 Nairobi, Kenya; E-mail: NMK@fricaonline.co.ke)

アメリカの平和博物館訪問記

ネブラスカ州リンカンにある大草原平和公園のドン・ティリー館長は、1999 年秋アメリカの東半分にある数多くの平和博物館を訪問し、次のように報告しています。

平和博物館は、社会を良くする所であり、また真実を伝え、希望を与えるところです。マハトマ・ガンジーとマルチン・ルーサー・キングの展示を、多くの平和博物館で見たく思いましたが、二人が生きた時代だけでなく、将来の非暴力主義を考慮して展示することが大切だと思います。

アメリカで一番大きい問題は暴力ですが、平和博物館では、家庭、地域、国、世界で平和に暮らすことは可能であるという考えが大多数でした。

アメリカの平和博物館の主なメッセージは、次の通りです。

- 私達は平和を、非暴力の立場で創造できる。
- 平和博物館は、戦争博物館と異なり、未来に焦点を当て、人々に希望を与える。
- 家庭内暴力など、地域の問題と、国際問題を関連付ける。
- 指導力のある女性や、傷つきやすい子ども達に配慮する。

なおティリー館長は、訪問した平和博物館のスライドを作成されました。(66 枚で 20 分) 訪問された平和博物館は、次の通りです。

The Peace Museum, Chicago; swords into Plowshares Peace Center and Gallery, Detroit; National Civil Rights Museum, Memphis; Woodrow Wilson House, Washington, D.C.; Prairie Peace Park, Lincoln, NE; The King Center/MLK's Birthplace, Atlanta; Martin Luther King, Jr., National Historical Site, Atlanta; Cyclorama (largest painting in the world, about Civil War), Atlanta; Gone with the Wind (Margaret Mitchell's House; Civil War), Atlanta; Sojourner Truth's/Underground Railroad Monuments, Battle Creek, Mich.; Elizabeth Stanton Cady's House/National Women's Museum, Seneca, N.Y.; The Jimmy Carter Center, Atlanta; Holocaust Memorial Museum Washington, D.C.; Peace Garden (only a park), Minneapolis; Children's Museum-Peace Exhibit/Science Museum, St. Paul, MN; Children's Museum-Peace Exhibit, Chicago; George Washington's Plantation, Mr. Vernon, VA; Boston Episcopalian Diocese, Boston Commons, Boston (labyrinth; Guatemalan exhibit); Museum of Fine Arts, Boston; First Congregational Church, Norwood (started Boy Scouts of America).

ティリー氏の連絡先は、国連出版の Peace Museums Worldwide を御覧下さい。

(Fax: 1-402-466-6741)

大規模な博物館における共通の目標：平和の文化

スミソニアン博物館の教育コンサルタントである Lynn-Steven Engelke さんの報告(上記の内容)の一部が載っています。スミソニアン博物館には、異なった博物館が 14 館ありますが、1995 年に原爆投下に関する展示で、国際的に注目されました。事務官のマイケル・ヘイマン氏は、論争の的になる内容を展示する重要性を指摘しています。現在の様々な展示の詳細は、ニューズレターとは別に入手可能です。例えば、国立アメリカ歴史博物館館長のスペンサー・クルーは、一つの見方だけが正しいのではなく、様々な見方があることを示すところが博物館であり、このことを示すことはどの教育機関でも重要であることを指摘しています。

Lynn-Steven Engelke, Education Consultant, Smithsonian Office of Education, Smithsonian Institution, Arts & Industries Building Room 1163, 900 Jefferson Drive SW, Washington, D.C. 20560-0402; Tel.: 1-202-357-3050; Fax: 1-202-357-4908; E-mail: sengelke@soe.si.edu

アメリカでは年間約 700 万人の子ども達が首都にある戦争記念碑を訪問しますが、カリフォルニアの元教師であるエリザベス・マッケイさんは、平和の実現のために努力した人々を称える所があるといいのではないかと考え、平和庭園が実現することになりました。そこでは、式典や祝賀会、行事、展示会、教育活動が行われる予定です。議会は連邦政府の土地を 10 エーカー提供する法律を可決しました。1500 万ドルの費用がかかりそうですが、個人、家族、財団、会社から寄付を集める予定で、現在一割以上集まっています。完成は 2002 年 6 月 30 日の予定です。<http://www.CELEBRATEPEACE.ORG>
Address: The National Peace Garden Foundation, 1800 Diagonal Road, Suite D, Alexandria, VA22314, USA; Tel. 1-703-684-4380; Fax: 1-703-684-4382

国際平和旅行協会

1999 年 10 月グラスゴーで国際平和旅行協会の第 3 回国際会議が開かれ、平和の旅が国際平和と繁栄の促進に貢献する可能性、環境に優しい旅行のあり方などについて、話し合われました。平和博物館国際ネットワーク (INPM) のコーディネーターである Dr. Peter van den Dungen とドイツのレマーゲン平和博物館の Hans Peter Kurten 氏が、平和の旅について発表されました。今後国際平和旅行協会と INPM の連携を強化すると、双方に良いと思われまます。

国際平和ポスターコンテスト展示会：ライオンズクラブ

これまでライオンズクラブでは、国際平和ポスターコンテストと展示会を 11 年間行ってきました。1988 年以来、11 才から 13 才までの子ども達 180 万人が参加しました。60 か国における 32 万 5 千人以上の子どもが作品を提出し、その中から 24 枚選ばれます。入選者には 2500 ドルの賞金と、国連で開かれる授賞式への参加費（家族 2 名分を含む）が、支払われます。展示会は、国連や世界各地で開催されますが、子どもの目を通して世界を見ることで、平和の尊さを知ることができます。展示期間は 21 日から 30 日が望ましく、船便による輸送費は、ライオンズクラブによって支払われます。関心のある方は、御連絡下さい。

Jean Sellers, Public Relations Department, Lions Clubs International, 300 22nd Street, Oak brook, IL 60523-8842, USA; 1-630-571-5466 (ext.372); Fax: 1-630-571-1685; E-mail: lionpr@worldnet.att.net; www.lionsclubs.org

エルサレム：ダビデの塔博物館

ダビデの塔博物館は、築 700 年の古い城の中にあり、エルサレムの 4000 年の歴史をたどり、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の中心であることを考察しています。エルサレムにおける対立を平和的に解決するには、歴史を理解することが重要です。展示物は、ヘブライ語、アラビア語、英語で解説されています。

Tower of David, Jaffa Gate, P.O. Box 14005, Jerusalem 91140; Tel.: 972-2-626-5333; Fax: 972-2-628-3418

ドイツ：インゴルシュタット平和博物館

バイエルン州インゴルシュタット市（元要塞都市）では、ドナウ川の川岸に平和博物館を建設する計画があります。ここでは平和を歴史的、現代的に考察し、学習や討論をする場にする予定です。

平和の都市、ニュレンベルグ

ニュレンベルグは、1935 年人種差別法、ナチス党集会開催のため、第 2 次世界大戦後国際軍事裁判が開催されました。しかし現在は「平和と人権擁護都市」として、国際人権会議、国際映画祭など、様々な取り組みがなされています。これは 2000 年 11 月まで続きますが、詳細は下記の所で入手できます。

Projektburo Stadjubilaum, Am Hauptmarkt 18, D-90317 Nuremberg, Germany; Tel.: 49-911-231-2000; Fax: 49-911-231-2001

ベルファスト：市民権博物館

1999 年 5 月クイーンズ大学で市民権博物館を創るために、様々な人々が集まりました。「紛争解決に、暴力を受け入れることはできない」「偏狭な態度や行動は、受け入れるべきではない」「多様性によって得た力強さ」というメッセージを取り入れる予定です。

Museum of Citizenship, 102 High St., Belfast 1 2DL; Tel.: 44-1232-245-300; Fax: 44-1232-248-460; E-mail: bel@museum66.freeserve.co.uk

スコットランド：秘密核兵器指令センター

冷戦が終わり、1994 年にスコットランドの地下にある核兵器指令センターが博物館として公開されています。そこではレーダー室や核兵器指令センターだけでなく、冷戦中イギリスで最も重要な核軍縮運動 (CND) の歴史についても展示しています。

Address: Underground Nuclear Command Centre, Crown Buildings, Troywood, Near St. Andrews, Fife KY168QH; E-mail: Mod@secretbunker.co.uk; Internet website: <http://www.secretbunker.co.uk>

シシリー：非暴力に関する国際展示会

イタリアでは 2000 年にシシリーで非暴力に関する国際展示会をする予定です。パテルノという町では、2 月に平和博物館を開館し、またシシリー発の「平和の列車」や「平和の船」が計画されました。海は人々をつなぐものであり、船は人を脅かす存在ではなく、友情を育むものとして考えることができます。

'Stop War' Committee: Tel. & Fax: 39-095-316-339 (Catania) or 39-81-878-2600 (Sorrento); E-mail: stopthewar@iol.it

世界平和の鐘：ケンタッキー州のニューポート

世界で最大の鐘は、ケンタッキーのニューポートにある世界平和の鐘です。高さが 366 センチあり、重さが 33 トンあります。詳細は、次のホームページで入手できます。

<http://byroads.com/magazine/peacebell.html>

スリランカ

元外交官の Godage さんは、ハーグや日本の平和博物館を知り、スリランカに平和博物館の創設を考えています。従って、忠告や支持をお願いしたいということです。国際ネットワークのメンバーの方は、よろしく申し上げます。

K.Godage, 82 Ward Place, Colombo, Sri Lanka

オーストリア：シュライニング

5月8日に15世紀に建てられたシュライニンク城でヨーロッパ平和博物館が開館し、「戦争か平和か：暴力礼賛から平和文化へ」という展示が行われます。開館まで、オーストリアだけでなくヨーロッパ各地の人々が協力をしてきました。1999年6月に「ヨーロッパ平和博物館の友の会」がハンブルグに発足しました。

Förderkreis des Europäischen Museums für Frieden e.V., Schmilinskystr. 25, D-20099 Hamburg, Germany; Tel. & Fax: 49-40-280-55231; E-mail: VenthPax@aol.com

オーストリア：Wolfsegg

Wolfseggの平和博物館では、1999年5月の「平和の友の日」にオーストリア北部から人々を招待しました。また1626年の農民戦争の終結を記念した農民戦争記念館へ行きました。館長のフランツ・ドイチ氏は、第三回平和博物館国際会議の報告をし、どのようにすれば平和博物館の協力を強化できるか、また「平和の友」に入っている個人がどのようにして強固な国際組織を作ることができるかという問題提起をしました。

ベルギー：Diksmuide

Ijzertower 平和博物館では、1999年5月に「コソボ行動の日」を設け、専門家による講演、写真展、植林、音楽など様々な取り組みをしました。また2000年6月30日まで「教育における戦争と平和」という展示会が教員組合によって行われ、カリキュラムにおける戦争と平和のテーマ、また第一次世界大戦がどのように学校生活に影響を与えたのかを取り上げます。

ドイツ：ベルリンの反戦博物館

平和図書館と反戦博物館 (Friedensbibliothek/Antikriegsmuseum) は、1999年6月10日に15周年記念を祝いましたが、それまで1000回展示会をしました。

Hindelang

1999年6月24日ドイツのHindelanga/Allgauに、リンダウ平和博物館元館長のトーマス・ヴェックス氏によって、平和歴史博物館 (Friedenshistorisches Museum) が開館しました。平和と和解のために努力した人々に関する展示を行い、新しい世代が先人の未来像と勇気を学ぶことができるようにしています。彼の著書「平和は可能である」 (Friede ist Möglich: Biografien und Initiativen aus zwei Jahrtausenden) が、出版されました。

注文先は、次の通りです。Mr. Thomas Wechs: Burgkmairstrasse 14, D-86152 Augsburg, Germany; Tel. & Fax: 49-821-517-830

レマーゲン

レマーゲン平和博物館のニューズレターでは、広島、ネバダ、チェルノブイリにおける被爆に関する展示会について、報道しています。アメリカ、日本、ドイツ、ウクライナ、カザフスタンの写真家からなる組織、Atomic Photographers Guildでは、移動展示物として写真を作成しましたが、その写真を7-8月に展示しました。

日本：広島

イギリスのリーズで8-10月の間、広島と長崎の被爆の実相と後遺症に関する展示を行いました。被爆した物、写真、被爆者の絵画などが展示されました。また広島の原因をテーマにしたフランスのタペストリーの展示会が、広島で開催されました。その他

イタリアで開催された国際子ども芸術コンテスト入賞作品の展示会など、広島平和文化財団発行の「平和文化」の記事を紹介しています。

高知

1998年平和博物館国際会議で「平和のための博物館・市民ネットワーク」が創られ、高知の平和資料館「草の家」で英文ニューズレター「Muse」(山根和代編集)が1999年7月と12月に発行されました。そこでは日本の平和博物館のニュースや情報が載せられています。また日本語版は、4月に発行されました。Muse 1では、ハーグ平和会議、文化と文学を通して紛争解決を目指す国際会議、諸会議、出版物、ニューズレター、催し物について報道しています。これまで、38か国の約200人に送られました。Muse 2では、平和博物館、歴史の教科書、憲法への攻撃など、右傾化の動きなどが載せられています。「草の家」館長の西森茂夫氏は、「反戦・平和のいしずえ全国ネット」を提唱しています。「草の家・英文ニューズレター」で紹介されていたように、Museでも日本の平和主義者や反戦家の紹介がされています。また高知の平和主義者の言葉が、「自由・平和・友愛の栞」(草の家作成)で紹介されています。今後平和歴史学会(Peace History Society:国際的組織で、アメリカに本部がある)やドイツ平和歴史研究会(German Working-Group on Historical Peace Research)などに、大変歓迎されると思います。その他「日本のシンドラー」と言われている杉原千畝平和博物館、昭和館などに関する興味深い記事があります。

平和博物館国際ネットワークとして、「草の家」10周年記念に際し、「草の家」の皆さん、特に創設者で館長の西森茂夫氏と国際交流部の山根和代さん達に心からお祝い申し上げます。「草の家」は比較的短期間に内容豊かな平和教育の取り組みをされ、地域でも国際的レベルでも平和実現のためのイニシアチブを発揮して、よく知られるようになりました。今後10年間の発展を楽しみにしています。また西山竜平氏が10周年記念パーティで言われましたように、「草の家」がいつかノーベル平和賞を受賞する日が本当に来ますように願っています。

オランダ：平和と非暴力のための博物館

反戦博物館は、「平和と非暴力の博物館」(Museum voor Vrede en Geweldloosheid)と名前を変更し、1999年11月に開館しました。約20の平和団体からなる全国平和組織の支持を得ています。詳細は、<http://www.ddh.nl/org/aom> で入手可能です。

スイス：ジュネーブ

第5回平和芸術家国際会議が、1999年5月にスイスで開かれ、テーマは「言語」でした。会議の報告書である"The Power of Language"の入手が可能です。第6回国際会議は、2000年10月インドのRajasthanで音楽をテーマに開催されるようです。

Artists for Peace: Case postale 181, CH-1211 Geneva 10; Fax: 49-30-8090-7342

イギリス：ブラッドフォード

「平和博物館の友」(Friends of the Peace Museum) Vol.2 (1999年10月発行)というニューズレターに、「共有する夢：平和運動の歴史における芸術」(A Vision Shared: Art from the History of the Peace Movement)という展示物について、記事があります。借りたい方は、輸送量と保険料を払ってください。

5月には、教育者のために「平和のイメージ：平和教育のための言語と芸術活動」と

いうワークショップを開きました。また6 - 7月には、小中学生のために平和芸術のワークショップを行いました。芸術を通して子どもの平和教育をすることが重要ですが、子ども達の作品を今後展示する予定です。

アメリカ：デトロイト

「刀を鋤に：平和センター&美術館」(Swords into Plowshares Peace Center & Gallery)では、Gilda Oliver による「平和の戦士」という展示が6月と9月に行われました。また「過去および現在平和の実現のために努力している人々の中で、21世紀にレプリカを創る必要のある人は、誰でしょうか」とミンガンの芸術家に呼びかけ、集まった作品が展示されました。(Harbinger というニューズレターで、詳細をすることができます。)

ニューヨーク

ニューヨークに平和博物館を建設する計画がありますが、平和運動の情報提供や平和教育の中心地となることを目指しています。国連には、平和博物館国際ネットワークの代表として、参加しています。

Adam Brownstein (Executive Director): The Metropolitan peace Museum, 10 West 15t St., no. 1422, New York, 10011; Tel.: 1-212-992-9702; Fax: 1-212-995-4398; E-mail: abrownstein@yahoo.com



イタリア：ミラノでの交流

「草の家」の国際交流部で中国との交流を担当している玉置啓子さんは、イタリアのミラノに滞在し、そこで平和博物館を作る活動をしているピエラ・カラムリーノ、ジャンカルロ・カラムリーノさん御夫妻に会って交流をしました。「平和博物館友の会」主催の「平和を訪ねて」という催しは、55年前のナチ占領下のミラノで連合軍の爆撃によって亡くなったゴルラ小学校の児童を悼むために開かれました。先生に連れられた小学生が、何クラスもやってきて、展示を見たり、日本のアニメ「つるにのって」(有原誠治監督)を鑑賞していました。アニメは英語版なので、まずピエラさんがイタリア語であらすじを説明しましたが、折り鶴を子ども達にプレゼントすると、次々手渡して、興味深そうにながめていたそうです。現在このアニメのイタリア語版を作ろうという計画があり、ピエラさん、ミラノのユニセフ関係者を中心に、イタリア留学中の玉置雄次郎教授も参加され、玉置啓子さんが日本側の製作関係者の連絡にあたるなど、協同作業が進みつつあります。(「草の家」国際交流ニュースより)

スペイン：平和博物館を作る活動

スペインの Castellon にある La Vall d'Uixo という所に、平和博物館を作る活動が始まりました。2月中旬から3週間、ジェームズ一世(Universitat Jaume I)大学平和・開発学修士課程で山根和代は客員講師として招待され、平和文化の創造について英語で授業を担当しました。今年は国際平和文化年ですが、平和文化を創造する国際的組織、平和教育や歴史教育の問題点、平和博物館が平和教育で果たす役割、マスコミのあり方、日本文学で戦争と平和をテーマにする作品の紹介など、多面的に取り組みました。その中で、上記のようにスペインに平和博物館を作りたいという動きが出て来ました。その結果、市長さんに会って協力をお願いしましたが、今後の活動が楽しみです。またメキシコの

留学生（元大学講師）も平和博物館を創りたいと、現在様々な計画を立てているところ
です。

ジェームズ一世大学では、オーストリアのシュライニングにあるヨーロッパ平和大学
と連携を取り合っています。平和学の分野でも、平和博物館への関心が高まってきてい
るようです。連絡先は、次の通りです。

Dr. Vicent Martinez Guzman (Director) or Eloisa Nos Aldas (Assistant Director)

MA Program in Peace and Development Studies, Centro Internacional Bancaja para la Paz y el
Desarrollo, Fundacion Caja Castellon, C/Enmedio, 82, 12001 Castellon, Spain

Tel. 34-964-232551, Fax: 34-964-230212, E-mail: epd@guest.uji.es

Website: <http://www1.uji.es/epd/master>

国際平和文化年

平和博物館は、平和の文化を創造する上で大きな役割を果たしていますが、日本では
なぜかマスコミであまり報道していないようです。しかし「日本の科学者」Vol.34（日
本科学者会議編集、1999年11月）には、「平和の文化」という特集があります。英文
では、ユネスコのホームページで下記の情報の入手ができます。

“Declaration and Program of Action on a Culture of Peace” : <http://www.unesco.org>

出版物

Exhibiting Peace: The Proceedings of the Third International Conference of Peace Museums

第3回平和博物館国際会議報告集です。日本語版は一部1000円（送料込み）、英語版も
一部1000円（送料込み）。ただし英語版3部以上注文の場合は、一部あたり800円、5
部以上注文の場合は、一部あたり600円（送料込み）です。入手したい方は、下記のと
ころへ御連絡下さい。

注文先：603 - 8577 京都市北区等持院北町 56 - 1 立命館大学国際平和ミュージアム
Tel.: 075-465-8151. Fax: 075-465-7899

また「立命館平和研究」－立命館大学国際平和ミュージアム紀要第一号が3月25日に
出版されました。特集として、第3回平和博物館会議歴史教科書問題ワークショップ報
告があります。

Peter van den Dungen, 'Peace Education: Peace Museums', in Lester R. Kurtz (ed.), *Encyclopedia
of Violence, Peace, and Conflict* (San Diego: Academic Press, 1999), Vol. 2, pp. 691-703

また国際ネットワークのニューズレターには、坪井主税教授の平和博物館に関する論文
の紹介もあります。（札幌学院大学人文学会紀要 No.64）

* なお平和博物館国際ネットワークニューズレターの発行者と編集者は、次の通りで
す。

International Network of Peace Museums Newsletter no 12 is published by Give Peace a Chance
Trust, Gerald Drewett, 20, The Drive, Hertford SG14 3DF, UK.

The editorial office is Peter van den Dungen, Peace Studies Dept., The University, Bradford BD7
1DP, UK. Tel. 44-1274-234177 & -235235; Fax: 44-1274-235240

1. 京都・平和友の会は、99年度も月1回の学習会や会報の発行を欠かすことなく続けることができました。会の活動の基本であるガイドは、年間を通し219回、13863人（前年比127.3%、123.1%）を数えました。

さらに念願のひとつであった若い世代への継承の面でも確かな足跡を残しました。ホロコースト日本子ども会議に引き続く「世界の子どもの平和像を京都につくる運動」などがそれです。2月、「つくる会」結成総会を成功させ、第1回例会（4/2）では高校生の3つの豊かな取り組みの報告の後、像建設の目的や像のイメージ、進め方などをめぐり活発な意見が交わされ、部会の役員体制も決まりました。平和のケルンがまたひとつ、築かれることを予感させました。（レポート、川畑康郎。TEL & FAX075. 465. 8353）

なお、立命館大学国際平和ミュージアム紀要「立命館平和研究」第1号が発行されました。

平和博物館と情報の問題は密接な関連がありますが、『経済』5月号に藤岡惇立命館大学教授が「アメリカ経済覇権と『情報の傘』」を書いています。ご参照下さい。

2. 東京に平和を考え交流する拠点づくりが始まりました。作家の早乙女勝元さんを中心に「平和のための戦争・戦災資料センター」（略称、平和資料センター）がそれです。建設場所は現事務所のある江東区北砂1丁目1-5（580平方メートル）で財団法人政治経済研究所が1億円の募金を行っています。TEL03-5683-3325 FAX03. 5683. 3326

3. 岩手県胆沢郡衣川村にある太平洋戦史館のニュース「イリアンだより」は「戦史館だより」に名称をかえました。平和

学習・友達づくり・戦争の後始末として遺骨収集に取り組んでいます。

4. 平和資料協同組合・ピースデポは2月の総会でNPOピースデポ（英語で表記する場合は、PeaceDepotとする）となり、密度の高い核情報を提供しています。また「核兵器の廃絶へー日本人の使命」と題する2000人アピールを出すべく2000人の署名を集めています。事務所223.0051 横浜市港北区箕輪3-3-1日吉グリューネ102号、TEL045. 563. 5101

5. 日本の戦後の深部を鋭い切り口で撮ってきた気骨のある写真家「福島菊次郎写真資料館」の建設への協力を呼びかけています。現在、下関市安岡に仮展示場があり、作品は3300点、20テーマの写真パネルを貸し出しています。（貸出料1テーマ3万円）

6. 「世界のヒバクシャ」写真展（出展写真家・伊藤孝司、桐生広人、豊崎博光、本橋成一、森下一徹、松重美人）を、世界100カ国に送り届け、核兵器がなくなるまで展示していくことを決意しました。作品は110点、貸出料は10万円です。各地での展示会にご協力ください。連絡先・東京都渋谷区代々木1-3-15「世界のヒバクシャ」写真展を広める会。TEL03. 3379. 5739 FAX03. 3320. 0681

7. 沖縄戦の新しい資料を集めた「沖縄県平和祈念資料館」が4月1日オープンしました。総事業費74億円、同資料館の展示内容をめぐっては県が勝手に内容を変更したとして論議を呼びましたが、世論のちからで原案に近い内容にもどされました。

8. 日蘭交流400年記念のイベントのひとつ

つ、展覧会「日本占領下の記憶」展を通じた対話に高めたいとおもい、オランダ側の公式行事の一環として日本側に開催を打診してきています。ところが広島・長崎の両原爆資料館や長崎市、ピースおおさかなどが断ったため窓口を長崎平和研究所(852-8105 長崎市目覚町25-2、TEL095. 848. 6003) 鎌田定夫が引き受け、全国に展覧会の開催を呼びかけています。鎌田さんは「第2次大戦と原爆投下を客観的に検証し、歴史から教訓を出す展示にしたい」とオランダ戦争展と併せて外国人被爆者をテーマにした展示を計画しています。

9. 大阪国際平和センター「ピースおおさか」が1月23日「20世紀最大の嘘『南京大虐殺』の徹底検証」の集会に会場使用を許可したことについて、国の内外から抗議の声があがっています。特に中国側の怒りは強く国際問題になっています。この事件の経過について『世界』5月号に中北龍太郎(ピースおおさか市民ネットワーク)氏が「平和博物館への攻撃をどうはね返すか」を書いています。

10. 1954年3月1日、太平洋上ビキニ環礁で米水爆実験の死の灰をあびた第五福竜丸のエンジンが、東京・江東区夢の島公園内の第五福竜丸展示館の屋外に展示公開されました。

11. 岐阜県加茂郡八百津町「人道の丘公園」に「杉原千畝記念館」が七月オープン。

12. 平和資料館・草の家10年の歩み「憲法の森・人間の森」を1000円で頒布しています。民立民営の資料館の資料としてご利用ください。

高知では2000年平和の波の一連の行事が6月24日より始まり8月下旬まで続きます。全部で15の総合的な平和行事です。

13. 平和人権子どもセンターだより「草の根」11号より

設立して丸3年、教科書資料館を併設して2年目。1997年4月から2000年1月末までの延べ来館者数は4668人1999年度の利用者は出前展示・講話も含め1月末で2305人になりました。泉州ミュージアムガイドブック各種機関紙などに「教科書資料館」が紹介されたこともあって、研修・卒論・修論などの調査・研究のため訪れる人が相次いでいます。

14. 静岡平和資料センター(静岡市相生町6-20T & F054. 247. 9641)では「地にひそむ・・・対人地雷展」を実施しています。4月30日まで。

15. 松代大本営の保存をすすめる会は「ニュース」112号で1999年度の取り組みが紹介されています。

***ミュージズに載せたいニュースや出版物、また御意見・感想は、「草の家」にお知らせ下さい。**

